

持続可能な農業幅広く

23日から
福岡市で

みどりの食料EXPO

「九州アグロ・イノベーション」九州みどりの食料システムEXPO2024」が10月23日からの2日間、福岡市のマリンメッセB館で開かれる。環境配慮やスマート農業など、持続可能な農業に向けた資材や技術を幅広く展示。農水省や農研機構、JA全農ふくれんなど、14の講演を予定する。

日本能率協会が主催し、農水省が協力。九州経済連合会やJAグループ福岡、九州大学大学院農学研究院などが後援する。

農業資材、鳥獣被害対策など企業・団体のブースに加え、スマート農業の企画展示を設け、「スタートアップエリア」では日本スタートアップ大賞受賞企

業・団体をパネルで紹介する。

業・団体をパネルで紹介する。

講演プログラムも充実させた。23日は南州エコプロジェクト（鹿児島県錦江町）の森田俊彦社長が「濃厚飼料生産の実証と課題」と題して講演。農研機構九州沖縄農業研究センター暖地畑作物野菜研究領域・領域長補佐兼グループ長の渡辺慎一氏が、アスパラガス茎枯病抵抗性品種の育成について報告する。

24日は農水省みどりの食料システム戦略グループ長の久保牧衣子氏が「動き始めたみどりの食料システム戦略」と題して講演。全農ふくれん営農開発部の花木正夫次長（内閣府地域活性化伝道師）が「食料安全保障確保への取り組み」と題し

て農業労働力支援について報告する。

会場では日本ジビエ振興協会の協力で移動式の食肉処理施設「ジビエカー」を展示し、車体の中を公開する。